

第16回 ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 支援-02

学校名・団体名	遠野市立土淵小学校
HPアドレス	http://www.tonotv.com/members/tsuchibuchisho
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	ふるさとと共に生きる児童の育成
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校が位置する岩手県遠野市は、多くのNPO法人やボランティア団体が東日本大震災における沿岸部支援の拠点とした場所である。復興支援に関する様々な活動を目の当たりにし、被災地である岩手県全体が復興するためには、地域が活性化する必要があり、そのためには地域に根ざす人材を育成しなければならないと考えた。このことから本校は特色ある教育活動の一環として「ふるさと学習」に取り組み、地域の特色を生かした教育活動を行い、地域の自然や伝統、歴史や文化、産業、人とのかかわりを通して、ふるさとの良さを再発見し、誇りに思い、地域貢献をしていこうとする人材を育成することを目的とした。</p>	

～ふるさとと共に生きる児童の育成～

遠野市立土淵小学校

1 子ども語り部活動

- (1) 対象者 全校児童1～6年生
- (2) 教科 国語 生活科 総合的な学習の時間
- (3) ねらい 郷土に伝わる民話をやゆかりの地を知り、語り伝えることにより、ふるさとの文化を継承していこうとする態度を養う。
- (4) 活動の成果

全学年で子ども語り部活動に取り組み「一年に一話を覚え、卒業までに六話語ることができるようになる」を目標に、地域の語り部の方から学んだり上学年が下学年に教えたりしながら活動した。

今年度は朝学習の時間に「語り部タイム」を設け、学級で練習したり、給食時の放送や昼休みを利用して、全校で語りを聞き合ったりした。時間を設定した。児童は、子ども語り部としての喜びと自信を持ちながら意欲的に練習に励んだ。特に4月に入学した1年生は、12月に遠野市の認定による「語り部認定」を受け、合格し、全員が認定証を持つことができた。

また、観光施設「伝承園」での子ども語り部としての出演、「佐々木喜善祭（遠野物語を伝えた郷土の偉人）」や遠野昔話まつり等での出演を通して、児童は、ふるさとの文化に誇りを持ち、継承していくことの大切さを学んだ。

どの活動も地域の方、遠野市を訪れる方に喜んでいただいた。被災地訪問を予定していたが宮城県仙台市の水沼町の方が、来町したことから訪問は行わず「伝承園」での活動にとどめた。児童は「自分たちの活動が周りの方を元気にしている。」と実感できた。

このように地域の伝統に関わる活動を通して、郷土を愛する心を育てるとともに「復興」のために自分ができること、必要なことは何かを考えさせることができた。

2 作物栽培体験とポップ和紙による卒業証書づくり

- (1) 対象者 畑作体験 全校児童1～6年生 稲作体験 3年生・5年生
ポップ和紙による卒業証書づくり 6年生
- (2) 教科 生活科 総合的な学習の時間
- (3) ねらい 作物栽培を通して、地域の方とふれあいながら収穫に至るまでの作業の大切さを学ぶとともに、生産する喜びを味わわせる。
- (4) 活動の成果

ア 畑作体験・稲作体験

地域の方の協力で作った学校の畑に、児童が畝作り、苗植え、世話、収穫、後始末まで自分たちの手で行った。特に苗植えでは、地域の方を講師とし、野菜の成長を願いながら苗の植え方を教わった。収穫の際には、講師に感謝の気持ちを伝え、喜んでいただいた。

稲作体験は3年生と5年生が行った。稲作体験で5年生がお世話になった米通り地区は、子供や若者がいない世帯数7件の集落である。ここに住む方たちは、水力発電施設を復活させたり、集会所を手作りしたり、県外や海外の方とも交流をされていて、地域の活性化を積極的に行っている。米通り地区の方との関わりを通して、東日本大震災の復興の合い言葉である「絆」の他に自分たちの力で生きるというたくましさを学ぶことができた。

ウ ホップ和紙による卒業証書づくり

遠野市は、ホップの栽培が盛んであり、児童が住む土淵町でもホップが栽培されている。ホップの花は、ビールの原料となる。しかし、葉や茎は、廃材として捨てられる。何mにも伸びるホップの栽培と収穫には人手がかかるが、労働量に反して僅かな生産量である。そのため、ホップ栽培をやめる農家も少なくない。しかし、近年、地元の遠野緑峰高等学校が中心となり、廃材であるホップの蔓を活用し、和紙や織物を作ろうという研究が行われてきた。そこで、本校の6年生も高校生と一緒に研究成果を確かめたいと考え、世界でたった1枚しかないオリジナルのホップ和紙による卒業証書づくりに取り組んだ。ホップ農家の方や高校生の支援を受けながら、ホップの蔓回収、皮むき、叩解（繊維の分離）作業、紙漉などのホップを和紙にする行程を体験するとともに、ホップ和紙生産に向けた高校生の研究について学んだ。

被災地である岩手県は、産業においても大きなダメージを受けた。これまでの仕事を続けられなくなり、地元を離れる人も少なくない。そんな中、地域産業の発展が復興の大きな鍵となると信じ、試行錯誤を重ねながらホップ農家の方と一緒に努力したり研究したりする高校生の姿を目の当たりにした。このことより、児童は、復興とは元通りになるだけではなく、地域が経済的にも人材的にもそして将来的にもしっかりと自立できることだということ学ぶことができた。

来年度は、ホップの栽培から自分たちの手で行い、地元の産業について、苦勞も含めさらに理解を深めていく予定である。

3 水源を守る環境学習

- (1) 対象者 4年生
- (2) 教科 総合的な学習の時間
- (3) ねらい 地域にある水源となる森林や、川について理解を深め、環境を守り、自然と共存していこうとする態度を養う。
- (4) 活動の成果

土淵町は、一級河川小烏瀬川が流れ、また水源である森林が多くある自然豊かな環境にある。この豊かな水源を守る活動のために4年生の児童が取り組んだ。

遠野エコネットや森林課の方の指導と協力のもと、水源となる森にドングリの苗木を植樹する活動を行った。学校の畑で苗木になるまで育てたドングリを、学区の森林に植樹し、下草の刈り払いを行うなど、成長を願いながら作業に励んだ。秋には、ドングリの実を拾い、苗木を増やすため学校の畑に蒔いた。

水源を守る森林の役割や自然との共存についてのあり方について学ぶとともに環境保全に対する意識が高まった。

このような地域の自然を守り育てていく活動を通し、地域の良さを感じるとともに地域を愛し、自然を守るために自分たちは何をしたらよいのか考える児童に育ってきている。

4 まとめ

本校の「ふるさと学習」は、復興教育の一環として位置付けられている「郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成する」を具現化したものである。活動を通して、地域の方々との「絆」がより深いものとなった。また地域を理解し、その中で生きる人々を知ることにつながった。今後も活動を推進し、さらに充実を図っていく。